

3.2.11 情報通信部門 タイ自然言語ラボラトリー

ラボラトリー長 井佐原均 ほか6名

アジア言語の処理技術の研究開発

概要

アジア言語に関する研究開発を通して、アジア圏の共同研究の拠点となるとともに、デジタルデバイド解消のためのシステム開発を行う。

けいはんな情報通信融合研究センター(自然言語グループ)の支援の下で、研究開発を行う。また、アジア地区の研究者や学生を集めて研究開発及び技術移転を行う。

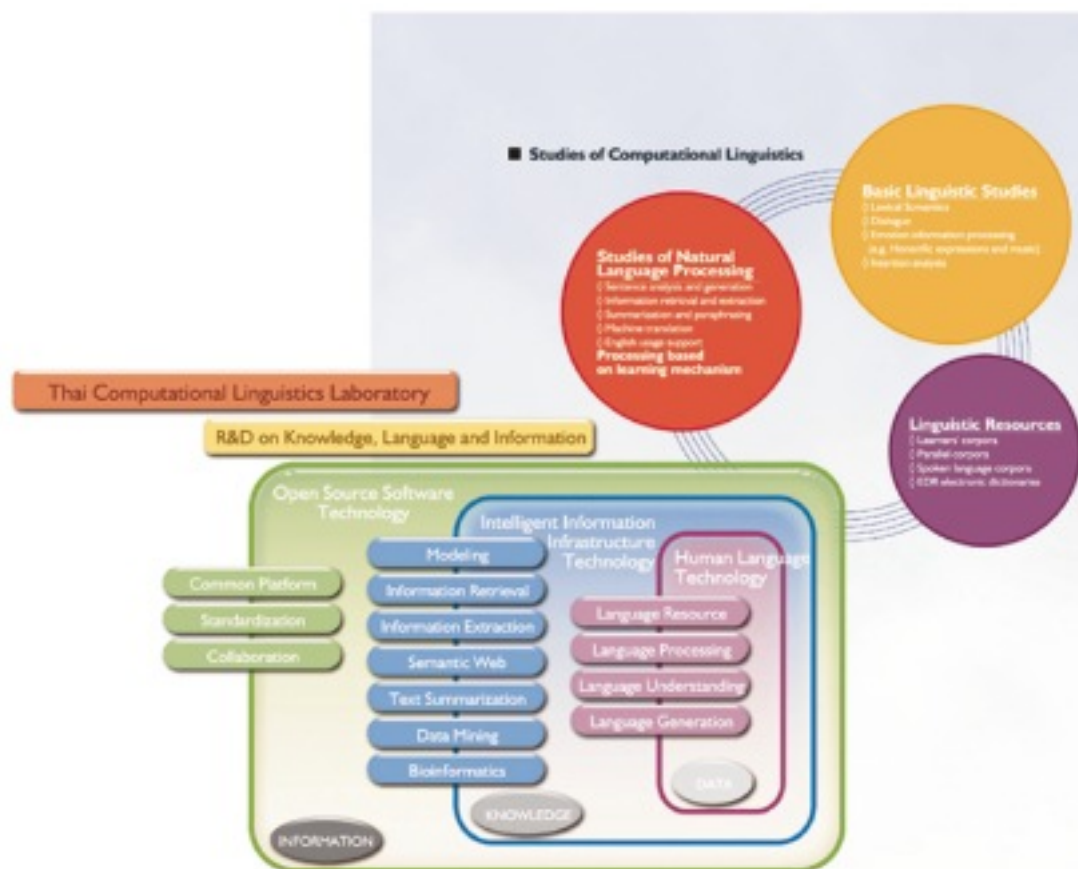
平成17年度の成果

アジア言語処理の研究として、タイ語のコーパスから言語処理に必要な情報を獲得する検索システムを開発した。また言語分類システムを開発し、ウェブからの各国語テキストの収集を行った。また、コーパスからの辞書情報の自動獲得法の研究を進めた。これらの成果について、国際会議で5件の発表を行った。

自然言語グループとの研究交流会を実施した。翻訳支援ツールを開発し、京都大学と共同で、それをを用いた多言語翻訳実験(日英⇒タイ、韓国、中国、マレーシア)を実施した。この実験により、自然言語グループが開発中の医療分野の機械翻訳システムの多言語化に用いるアジア言語のコーパスを作成した。

アジア地区における健全な自然言語処理研究コミュニティの成長を目指し、ISOの標準化活動(委員会への参加)、オープンソースの普及活動(タイ国内での多数の講演)を行った。

第10回機械翻訳サミットの現地委員会として活動した。同会議は250名の参加者を得て、大盛況であった。



タイ自然言語ラボラトリーと自然言語グループ